

* 本稿は、緩和医療研究会機関誌『緩和医療』通巻第18号(第9巻第2号)に掲載した誌面です。

本稿についてのお問い合わせは当会事務局へメールまたはFaxでどうぞ。

平成13(2001)年4月
緩和医療研究会©

岡山大学医学部における緩和医療教育の実態

斎藤 信也 SAITO Shinya
岡山大学医学部第一外科

I 方 法

「平成12年度岡山大学医学部講義要項(シラバス)」から、緩和医療に関連する講義項目をピックアップした。

II 結 果

別表参照

教養教育

- 1) 生命倫理入門, 生命倫理本論, 生命倫理特論という形で, 生命倫理に関する講義はきちんとラインアップされていた。
- 2) 「病の文化史」「生と性, 病と死」という文化

人類学的講義もあった。

- 3) チュートリアル教育が準備されており, チューターによっては緩和医療に関連した講義, 実習をさせている可能性があった。
- 4) 看護学入門的講義の中でも, ターミナルケア関連の講義がなされていた。
- 5) 保健学科教官(医師)による「死生学」のシリーズ講義も準備されていた。

専門(基礎)教育

医学概論の中で, インフォームドコンセントの講義がなされていた。

専門(臨床)教育

- 1) 精神科でリエゾン精神医学の一部として, ターミナルケアに触れられていた。

- 2) 麻酔科で痛みの治療の一部として、がんの疼痛緩和について触れられていた。
- 3) 臨床実技入門として、インフォームドコンセントの講義がなされていた。
- 4) 衛生学で特別講義。
- 5) 腫瘍治療学(第1外科)で特別講義。
- 6) 老年医学で終末期医療の講義。
- 7) 泌尿器科でインフォームドコンセントの講義。
- 8) 産婦人科でインフォームドコンセントの講義。
- 9) 第一外科で「がんの緩和医療」の講義。
- 10) 「医の倫理」というシリーズ講義がノートルダム清心女子大学・高木孝子教授により行なわれていた。

III 考察

教養教育では、緩和医療に関連する生命倫理、医療人類学、医学概論、死生学等の講義がひと通り整備されていた。

ただし、他大学医学部との比較はしていないので、これが豊富なのか、普通なのかは不明である。

- 専門教育では、
- 1) 緩和医療そのものの講義は、大学教官によるものが1回、学外の専門家による講義が2回あったが、基本的には3つとも独立した形になっていた。
 - 2) インフォームドコンセントについては、独立して3コマの講義があった。講義をする側からいえば、それぞれ目的があつたことと思われるが、学生にとっては、それらの関連性を理解するのが困難ではないかと考えられた。
 - 3) 精神科でのサイコオンコロジー、麻酔科でのがんの疼痛緩和については、予測したほどは講義がなされていないようであった。
 - 4) 6年生を対象とした「医の倫理」の講義は、1・2年生の時のそれと比べて、受け取る側の理解度等がどう変化しているのかが興味をひいた。

IV 今後の方策

調査の継続

- 1) 他大学医学部の講義要項(シラバス)を入手して同様の調査を行ない、比較をする。
- 2) 岡山大学での上記の講義の担当者にアンケートを行ない、緩和医療関係の講義をどの程度しているのかを具体的に調査する。できれば、講義のレジュメ等を見せてもらう。
- 3) 可能であれば、学生の講義ノートから、講義内容を把握する。
- 4) 学生に緩和医療関係の講義に関するアンケートを行ない、現状の講義の評価と今後の希望を訊ねる。
- 5) 岡山大学医学部の臨床各科に対して、緩和医療についての関心の度合いと、具体的な講義内容の、調査を依頼する。

現状での改善点

たとえば、加藤恒夫医師が衛生学と第一外科で行なっている2コマを、もう一つの第一外科のワクとある程度有機的に関連させ、学生にとって、緩和医療のシリーズ講義と感じられるようにする。

将来の問題

医学部における望ましい緩和医療教育のカリキュラムを考える(その際、イギリス等の教育カリキュラムを参考にする)

そうしたカリキュラムを、岡山大学医学部の教務委員長に、緩和医療研究会としてプロポーズしてゆく。

【別表】 岡山大学医学部における緩和医療講義(平成12年度)

1・2・3・4年生

医学セミナー(チュートリアル)

各チューターによっては、アーリー・エクスポージャー(early exposure)として緩和医療的な体験をさせている可能性がある。

一般教養

生命倫理入門 行安茂
病の文化史 永井廣

総合科目

「生きる(その三)……命の輝き」(担当:文学部助教授/吉谷啓次)

- 1 「生命をめぐる諸問」文学部助教授/吉谷啓次
- 2 「生命の危機と生きがい」柴田病院/伊丹仁朗
- 3 「医療現場に臨む哲学」東北大学教授/清水哲郎
- 4 「禅仏教における生死観」文学部名誉教授/定兼範明
- 5 「病気や障害と共に生きる」医学部保健学科助教授/大田にわ 他

生命倫理学(担当:文学部教授/高橋文博)

- 1 「日本人の死生観」文学部教授/高橋文博
- 2 「“医師 患者”関係におけるさまざまな問題」文学部助教授/吉谷啓次
- 3 「安楽死及び脳死をめぐる刑法上の問題」法学部教授/大塚裕史

生と性、病と死(担当:教育学部教授/高橋香代)

- 1 「私のからだ、私の病気、私が選ぶ」岡山中央病院/金重哲三
- 2 「死に方の選択」岡山中央病院/入江伸

看護と人の出会い(担当:医学部保健学科教授/加藤久美子)

- 1 「生命のターミナルと人との出会いと看護学」死を考える(担当:医学部保健学科教授/浅利正二)
- 1 「癌とともに生きる 生きがい療法の実践」

専門基礎

医学概論I(担当:医学部教授/徳永勲)

医学概論(担当:石田純郎)

11月21日「インフォームドコンセント、脳死、

臓器移植と日本人の死生観、遺体観」

専門科目

臓器・系統別統合講義

精神系

11月17日「リエゾン精神医学 リエゾンの意義、方法、ターミナルケア」精神科講師/山田了士

麻酔・蘇生系

11月9日「痛みの治療」広島大学教授/弓削孟文

臨床実技入門

医の倫理

「インフォームドコンセント」第二内科・第一外科

5・6年生

衛生学

9月26日「緩和医療の現状」(緩和ケア、緩和医療の具体的な実践を紹介する)かとう内科並木通り病院/加藤恒夫

老年医学

11月8日「神経・運動器疾患・終末期医療」三朝分院/芦田耕三

腫瘍治療学(担当:第一外科教授/田中紀章)

10月30日「がんの緩和医療」かとう内科並木通り病院/加藤恒夫

11月9日「がん患者の心理とケア」医学部保健学科教授/富田幾枝

症候別・課題別統合講義

4月14日「インフォームドコンセント」香川県立中央病院(泌尿器科)/朝日俊彦

5月25日「インフォームドコンセント」岡山労災病院(産婦人科)/小橋勇二

6月23日「がんの緩和医療」第一外科教授/田中紀章

医の倫理

6月9日~7月7日 ノートルダム清心女子大学教授/高木孝子